



# シリーズ タンチョウ

Vol. 333

鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ

田中美晴

〒085-1205 鶴居村中雪裡南 ☎64-2620/FAX64-2239

鶴居 タンチョウ

検索



## 3年ぶりに、一緒に夏の作業ができました！

8月29日～9月2日に、3年ぶりに夏のフィールド・アシスタント・ネットワーク（以下F.A.N）を受け入れることができました。F.A.Nは、自然保護のために首都圏の大学生が集まって設立されたネットワークです。鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリでは毎年、F.A.Nに所属する学生のワークキャンプを受け入れています。今年はコロナ禍の状況を考慮し、しっかりと対策を行ったうえで受け入れることにしました。今回はタンチョウの冬期自然採食地整備の様子をお伝えしたいと思います。

冬期自然採食地とは、タンチョウが給餌に頼らずとも冬に自然の餌を食べられるように整備した水場のことです。自然採食地整備という、これまでは水場周辺の藪を払ったり、倒木を除去したりしてタンチョウが出入りしやすいような整備を行っていました。しかし、生物調査の結果、タンチョウの餌となる生き物の数が少なく、タンチョウのおなかを満たせていないことが明らかとなりました。そこで今年からは、新しい取り組みとしてタンチョウの餌となる生き物を増やすための環境整備を行いました。

作業日は8月31日、あいにくの雨の中でしたが、地元の方にも手伝っていただきながら作業開始です。今回やりたいことは、①直線的で環境変化の少ない小川に水制のための丸太を設置し蛇行させる②今までは除去していた倒木などをあえて川の中に入れ、水生生物の隠れ家を作る③川底に小石をまくことで、水生昆虫の住処や石のある環境を好む魚を増やす、この3つです。まずは丸太を用意します。地元の方が適当な大きさの木をチェーンソーで切ってくれました。この丸太を運び、川の中に2本、横向きに重ねておきます。支えのため



水制のために設置した丸太の後ろで記念撮影

の木杭を4本、金づちで叩いて安定したら、木杭同士を麻紐で縛って完成です！とても簡単に説明してしまいましたが、実際には重い丸太を運ぶ力仕事をしたり、慣れない工具や難しいロープワークに苦戦したりと、学生の皆さんにはかなり頑張ってもらいました。そのかいあって、直線的だった川の流れは蛇行し始め、結果が目に見えたので達成感を感じました。次に、水生生物の隠れ家となる環境創出を行いました。丸太を切ったときに出た枝を利用して、川の中に積み重ねました。ここにいずれ、流れてきた草や落ち葉が引っかかり、水生生物の隠れ家になることを期待しています。最後に、3～4cmの小石を少量、川底にまきました。これで予定していた作業は終了しました。

雨で足場も悪い中、非常に大変な作業だったと思います。それでも、タンチョウのために一生懸命作業を行ってくれた参加者5名に感謝の気持ちでいっぱいです。今回整備した冬期自然採食地は冬に生物調査を行う予定なので、生き物が増えたか、環境は変化したかなど結果が今から楽しみです。